



「白」と「黒」を基調にしたデザインがクールなQ's iDCの受付ブース。ビル内の白い壁が移動して現れる入口は、初めて訪れた人をSF映画の世界に誘う

九州発、アジア・世界へのeビジネスを加速する西日本最大級のインターネットデータセンタ

# 日立ディスクアレイサブシステムSANRISEシリーズ

株式会社 キューデンインフォコム

インターネットを通じた企業間取引や、電子自治体の動きが加速するにつれ、その基盤となるデータセンタの選択には、高品質なサービス提供とビジネスの継続性を保証する、クオリティや信頼性が重要な要素となってきました。そこで九州電力グループの情報通信企業「キューデンインフォコム」は2003年1月、光ファイバによる大容量・高速インターネット接続や、24時間365日の運用監視サービス、最新のファシリティと万全のセキュリティなどを取りそろえた西日本最大級のデータセンタ「Q's iDC(キューズアイディーシー)」を開設。その核となるストレージシステムには、日立のSANRISEシリーズが選択されました。

## 九電グループのノウハウを生かしたITソリューションを提供

2000年9月に設立された「株式会社キューデンインフォコム(以下、Qic)」は、電気事業で培った豊富な経験と高い技術力、



常務取締役

秋吉 廣行氏

信頼性などを背景に、高度なノウハウと人材、光ファイバをはじめとする最先端のネットインフラを駆使しながら、さまざまなお客さまニーズに対応したITソリューションをワンストップで提供する情報通信企業です。

「Qicのビジネスフィールドは、企業や自治体のIT戦略を担うIT化企画・コンサルティング事業」

最新の設備を擁した「インターネット・データセンタ事業」、そして「アプリケーション提供・ITプラットフォームサービス事業」の3つに大きく分かれています。

近年は、長引く不況やビジネスのグローバル化を背景に、企業は自社のコアコンピタンスに経営資源を集中させ、ITシステムの運用管理などは外部にアウトソーシングすることが重要な戦略となってきました。そこで当社は、地元の企業や自治体と長年にわたってお付き合いしてきた九電グループの知識や経験を生かし、常にお客さまの立場に立った最適なITコンサルティングとITリソース、各種ソリューションの提供を推進していき



IDCソリューショングループマネージャー部長

横山 英俊氏



株式会社キューデンインフォコム  
本社 / 福岡市中央区渡辺通2丁目1番82号  
電気ビル本館4F  
代表取締役社長 / 苜塚日出美  
(九州電力株式会社  
代表取締役副社長兼務)  
出資企業 / 九州電力株式会社  
資本金 / 4億8,000万円  
設立 / 2000年9月1日  
事業内容 / IT化企画・コンサルティング、  
データセンタ事業、  
アプリケーション提供・ITプラ  
ットフォームサービス

株式会社 キューデンインフォコムのあるビル

いと考えています」 (常務取締役 秋吉 廣行氏)

Qicの本拠地である福岡県は、日本の中でも有数のIT先進県。民間の企業や団体が無料で使える高速・大容量のIP-VPNサービス「ふくおかギガビットハイウェイ(FGH)」や、IT関連企業の集積化を図るためiDC利用費用の大半を県が補助する「ふくおかiDC補助金制度」、高度なIT人材を育成するNPO教育機関「AIP(Academy for advanced Information technology Professionals)」などを実現するほか、EA(Enterprise Architecture)を活用した電子自治体プラットフォーム構想を

推進するなど、ハード面からソフト面までの幅広い領域をカバーした戦略的な施策展開を実施しています。

Qicは、これらのプロジェクトを積極的に支援する企業の1つであり、「IT活用による地域振興、アジアを対象としたグローバルビジネスの拡大に貢献していくことも当社の重要なミッション」



Q's iDCセンタ長

山切 和昭 氏

であると、秋吉氏は強調します。

### 最新のファシリティと万全のセキュリティ・運用体制で 高品質なサービスを提供

そのための強力な経営基盤の1つが、2003年1月に開設された西日本地域最大規模のデータセンタ「Q's iDC」です。延べ床面積・約1万平方メートルの広さを誇る同センタは、アジアへのブロードバンド・インターネット・アクセスを実現するKJCN(日韓ケーブル・ネットワーク)やFGHに加え、高速・大容量のインターネット・バックボーンに直結。専門知識を備えたスタッフが24時間365日常駐するとともに、阪神淡路大震災クラスの地震にも耐える免震構造のビル設備と各種セキュリティシステム、電源・空調・通信機器・通信回線の二重化などにより、ミッションクリティカルなノンストップビジネスを高い次元で実現するトータルソリューションを提供しています。

「Q's iDCでは、お客様のシステムを預かるハウジングサービス、お客様に機器の設置スペースを提供するコロケーションサービス、高性能・高品質のストレージエリアを提供するストレージサービス、さまざまな運用を一括して担うアウトソーシングサービ



くつろぎの空間カフェラウンジには、お客様のリラックスした表情が集う



仮眠をとれるリラクゼーションルーム。このほかにシャワールームも完備している

スなどの多彩なサービスを、キャリアフリー・ベンダーフリーで柔軟に提供しています。自治体関係では、福岡県のアウトソースを受託させていただいたり、市町村共同利用センターとしてもご利用いただくなど、機密性と信頼性でも高いご評価をいただいています。

また現在、福岡県にはFGHとiDCを基盤に、通信事業者やコンテンツホルダーなどのIT関連産業を福岡に集め、インターネットトラフィックを集積したいという構想があります。当社のQ's iDCは、構想実現に向けた施策の一つである“ふくおかiDC補助金制度”が利用できることから、Q's iDCをお使いいただくお客様は、大きなコストメリットが得られることとなります」

(iDCソリューショングループマネージャー 部長 横山 英俊氏)

### 災害に備えたディザスタリカバリサイトとしても注目集める

一方、Q's iDCが備えるセキュリティとファシリティは、九州以外の地域からのディザスタリカバリサイトとしても大きな注目を浴びつつあります。

「福岡は、日本の中でも特に地震の少ない地域の1つですが、Q's iDCではハイレベルの免震構造と、水害に備えた上層階への電源設置、各種インフラの二重化など、今までにない高信頼のファシリティを備えました。



Q's iDC課長

石井 基大氏

また、ネットワークの24時間監視、生体認証を使った入退室管理、監視システムなど、セキュリティにも万全を期しています。これはiDC本来の信頼性とセキュリティ確保に加え、米国を襲った同時多発テロ(9.11)以降、日本でも急速に増えてきた、お客様システムのディザスタリカバリサイトと

してのニーズに対応するためのものでもあります。この設備と機能が注目され、首都圏や中部圏のお客様から多くの引き合いをいただくようになりました」

(Q's iDCセンター長

山切 和昭氏)

そして、お客様のノンストップビジネスを支える中核として、ディザスタリカバリにも強みを発揮するバックアップシステムに採用されたのが、日立のサーバとストレージサブシステムSANRISEシリーズです。

「ストレージシステムにおいては、事前に国内外のさまざまな機種を検討しましたが、性能と信頼性、導入実績においてSANRISEが非常に優れていると判断しました。特にSANRISEとバックアップソフトウェア、仮想テープライブラリ装置の組み合わせによるバックアップ/ディザスタリカバリリユースは、その安定性と運用管理の省力化という面で、大きな戦力になると期待しています。また、国内の各地域に専門のスタッフとエンジニアがいて、すぐ駆けつけてくれるサポート面での安心感も大きな選定ポイントになりました。実際に先日は、お客様からディスク容量を増やして欲しいという急なご要望があったのですが、日立さんのレスポンスが非常に速く、短期間で対応することができました」

(Q's iDCセンタースタッフ 木藤 修氏)



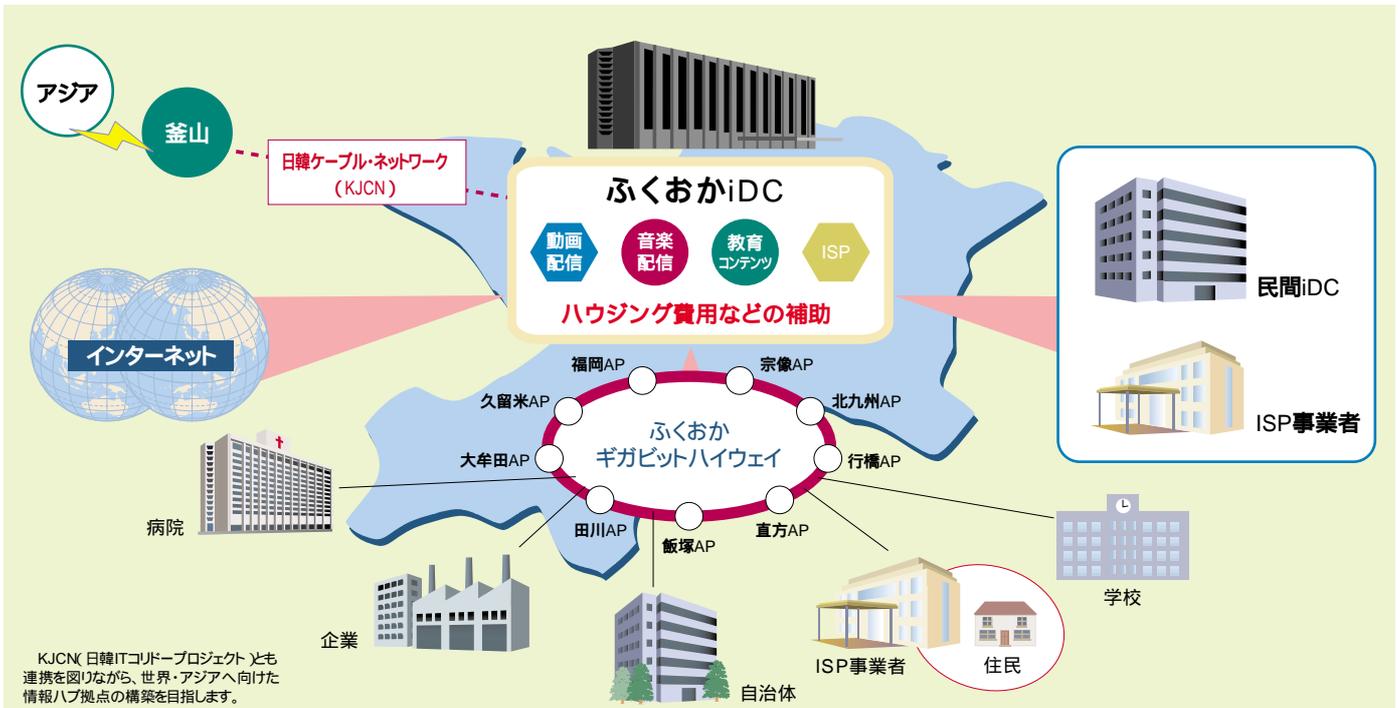
Q's iDCセンタースタッフ

木藤 修氏

### 快適な作業空間を演出する多彩なファシリティ

さらにQ's iDCの大きな特長となっているのが、お客様がセンター内で快適に仕事をするための環境づくりや、企業市民(Corporate Citizen)としての活動にも力を注いでいる点です。

「これからのiDCには、ビジネスに携わる方々のヒューマン



ふくおかギガビットハイウェイおよびふくおかiDCの概要図



超大規模SAN環境構築に最適なSANRISE9970V  
ブロードバンド時代の膨大なデータを効果的に活用するための高性能・高信頼性の先進アーキテクチャを搭載し、省スペース性にも優れている。左は仮想テープライブラリ装置

エラーを低減し、創造的な発想を支援する意味でも、“集中”と“リフレッシュ”を兼ね備えた空間が必要です。そこで、お客さまが個室内で作業に集中できるサーバアクセスブースや、飲食しながらつろいでいただけるカフェラウンジ、作業に疲れた際に仮眠などをとっていただけるリラクゼーションルームなど、今までのiDCにはない多彩なファシリティを備えました。

また当センタは地域に根ざしたiDCとして、日本とアジア、世界に向けた情報発信の場でもあると考えています。そこで今年度は政府のe-Japan戦略の一環として総務省が実施した、IT活用の先端事例を内外に示す『e(イーびっくり)プロジェクト』に参画し、日韓光海底ケーブルを経由して韓国ソウルと九州の大学をライブ映像で結び、教室空間を共有する遠隔講義や中高生の日韓交流に役立てる試みを支援しました。今後もこうした活動に積極的に取り組んでいきたいと考えています」

(Q's iDC課長 石井 基大氏)

Q's iDCという最新鋭のデータセンタと大容量の光ファイバネットワーク、そして優れたコンサルティングノウハウなどを基盤に、企業や自治体に最適なソリューションを提供するQic。日立はそのアグレッシブなビジネス展開を、これからもSANRISEシリーズをはじめとする各種製品・ソリューションによって、強力にサポートしてまいります。

お問い合わせ先

(株)日立製作所 九州支社  
電力部 電力情報システムグループ 担当：齋藤  
TEL(092)852-3343 FAX(092)844-7601  
E-mail : y.saitou@gm.kyushu.hitachi.co.jp

情報提供サービス  
SANRISE シリーズホームページ  
<http://www.hitachi.co.jp/sanrise>